令和6年度 大野城市立大城小学校 校長便り
第6号
（令和6年5月25日 土曜日）
【文責】校長 弘松 英樹

大城の風
～校長室の窓から～

本校ホームページはこちらから←

子どもの感性に学ぶ

1年生が入学してしばらく経ったころ、「がっこうたんけん」の授業があり、多くの子どもたちが校長室にきてくれました。そのころから、子どもたちが学年を問わず、休み時間に校長室に遊びに来てくれるようになりました。中には、「校長先生、サインをください」と言ってノートをもってくる子もおり、まるで大谷翔平選手になった気分でしたが、どうやらいろいろな先生に声をかけてサインをもらっているようでした。

子どもたちが、校長室にきて一番興味を示すのが、壁に並んでいる歴代校長先生の写真です。子どもはなぜか、この写真に「うわあ」と目を輝かせます。そして、いろいろな疑問がわいてくるようです。

「どの人が最初の校長先生？」ときいて、教えてあげるとそこから1，2，3・・・と数え始める子がいます。また「女の子の校長先生もいるんだね」という子や、「なんで、女の人の校長先生は少ないの？」ときく子がいました。この子たちは、この風景からジェンダー平等の問題を見抜いています。私は、それを考えたことがなかったので、思わず「ほんと、そうだねえ。」と共感してしまいました。そして、「なんで、こんなに写真がかざってあるの？」という質問をよく受けます。私が「どうしてと思う？」と聞くと、子どもたちは「ずっとおぼえていてほしいから」とか「（写真があると）校長先生たちが、まだここにいるような気がするから」と答えてくれました。私は、その答えに感心してしまいました。校長である私以上に、子どもたちの方が、この写真の意味を考えていたからです。

松任谷由実さんの『やさしさに包まれたなら』という曲に、こんな歌詞があります。

「♪ やさしさに 包まれたなら きっと　　目に映る すべてのことは メッセージ ♪」

大人と同じ光景を見ても、子どもが感じているものは違います。子どもたちの瞳は、澄んでいて、純粋で、その子だけの受け取り方でメッセージを感じています。私たち大人も、子どもの頃はそうだったのでしょうね。子どもと話すと、そうした忘れかけていた感性に気づきます。

そうした子どもの素敵な感性を守ってあげたいと心から思います。これから出会うすべての人やもの、ことからたくさんのメッセージを受け取ってほしい。そのために大事なことは何でしょうか。そのヒントは、先ほどの歌詞にあります。「やさしさに 包まれたなら きっと」。子どもの感じた事を否定せず、耳を傾け共感したり、一緒に感動したりすることが「やさしさで 包む」ことだと思います。そのことによって、私たちも優しい気持ちに包まれるでしょう。